7　鳴門瀬戸　中川八郎

大正六年（一九一七）　油彩・カンヴァス
八九・二×一一四・八

本図は、大正五年の立太子礼を祝って全国の文官一同より大正七年に献上された作品。この時の献上は、本図を含む七面の油彩画と日本画家三十六名による画帖三冊という大規模なものであった（詳しくは19～21頁のコラム参照）。その中で中川八郎（一八七七～一九二二）が手がけた画題が、鳴門の渦潮であった。

愛媛出身の中川にとって、瀬戸内海はなじみの場所であり、大正六年の一月と四月に瀬戸内海へ写生に出かけているが、この献上画の制作を依頼されて同年七月にあらためて鳴門へ足を運んでいる。勢いよく渦を巻く海面とその奥に広がるなだらかな山々、そして穏やかに晴れ渡った空と、画面は幾通りもの青色が混ざり合って、瀬戸内海の暖かな陽光に映える風景が見事に表現されている。「中川八郎謹寫」と献上画にふさわしいサインが入っている。なお、本図と同時期に制作されたと思われる「阿波の鳴門」が、大正六年の第十一回文展にも出品されている。

中川は、愛媛県大洲に生まれ、はじめ松原三五郎に洋画を学んだ後、明治二十九年に上京して、小山正太郎の画塾・不同舎に入門した。明治三十二年には渡米して現地で絵を売って旅費をため、さらにヨーロッパに渡って各地を回った。帰国して明治三十五年には明治美術会の後進組織となる、太平洋画会を満谷国四郎、石川寅治、吉田博といった同志らと設立した。その後も中川は欧米に再訪する一方で、文展を中心に活躍した。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し
三の丸尚蔵館展覧会図録No.52

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十二年十月三十日発行

©2010, The Museum of the Imperial Collections